

長野市

人権教育啓発だより

第21号

発行
長野市地域・市民生活部
人権・男女共同参画課
長野市大字鶴賀緑町1613番地
電話 224-5032

第4回人権教育指導員研修会 及び 第2回社会人権教育研修会（期日：11月20日、会場：長野市役所第二庁舎10階講堂）

演題 「セクシュアルマイノリティ（性的少数者）の人権」

講師 小泉 涼 さん（ダイバーシティ信州 会長）

【LGBTの基礎知識】

Lはレズビアン、女性同性愛者。Gはゲイ、男性同性愛者。Bはバイセクシュアル、両性愛者。Tはトランスジェンダー、心と身体の性別が一致しない人。4つの頭文字からなるセクシュアルマイノリティ、性的少数者を指す言葉がLGBT。この他に「アセクシュアル」の人や、「クエスチョニング」の人など、多様なセクシュアリティが存在します。セクシュアリティは「性のあり方」と言われ、4つの要素があります。1つ目はからだの性（生物学的な性）。2つ目はこころの性（性自認・性同一性）で、女性、男性、分からない（クエスチョニング）、いずれでもない（Xジェンダー）など。3つ目は表現する性（性役割・性表現）で、服装や行動、振る舞い、言動など社会から期待される性。4つ目は好きになる性（性的指向）で、女性が好き、男性が好き、両方とも好き、両方とも好きにならないなど。このLGBTの割合は7.6%、左利きの人、AB型の人と割合とほぼ同じです。最新の調査では8.9%という数字も出ています。名字で多い佐藤さん、田中さん、鈴木さん、高橋さんの割合は人口の5%程度で、LGBTはこれらの人より多いです。

【社会的動向】

性同一性障害は医学的な診断名で、トランスジェンダーの中でも病院で診断を受けた人を指します。誰もがホルモン投与や性別適合手術などの医療行為を望むわけではないので、性同一性障害はトランスジェンダーの中に含まれます。

現在、同性婚ができる国や地域は世界に27ヶ国です。日本では同性カップルの婚姻は法律で認められていません。婚姻関係を認められたいと願う同性カップルは多いです。2015年、東京都渋谷区で日本初となる「同性パートナーシップ制度」が設けられ、現在27の自治体に広がりました。県内でこの制度を導入している自治体はありません。松本市や長野市などの6市町の

議会で性的少数者（LGBT）らの人権を尊重する施策を求める請願が採択されています。

【自分の存在を肯定できた】

私はLGBTの当事者。トランスジェンダーで、性同一性障害。セクシュアリティはFTM（Female to Male）。女性として生まれたが、物心ついた頃から性自認は男性で、心と身体の性別の不一致に悩み苦しんできました。自分の性別に疑問を持ったのは小学校入学の時でした。上履きや体操服が男女で色分けされていました。男の子は青、何で自分だけ赤なのかと思いました。第二次成長期で初潮を迎えたり、胸が膨らみ始めたりしたことに悩みました。高校3年生の時、ドラマで体は女性だが心は男性という生徒を見て、自



分が「性同一性障害」であると分かり、初めて自分の存在を肯定できました。大学生になって精神科のカウンセリングを受けるなど治療を始め、2015年12月にタイで性別適合手術を受けました。手術の翌年2016年の7月に戸籍上の性別を女性から男性へ変更しました。

【LGBTパーティーでのカミングアウト】

大学での就職活動をして、最終的には地元の市役所へ女子職員として就職しました。問題はカミングアウトをどうするかでした。私は在職中に名前を変えて、

手術を受けて、性別も変えました。自分が所属していた部署の上司と同僚には、手術を受けにタイに行くための休暇取得の際にカミングアウトをしましたが、他の職員は知りません。戸籍の変更手続きでは庁内に書類が回るため、自分が言わなくても知られてしまい、必然的にカミングアウトせざるを得ない状況でした。どうやってカミングアウトをするか。一人一人にはとても言い切れない。全職員に対してカミングアウトする機会を設けることもできない。そこで、自分で LGBT パーティーを開いて、その場でカミングアウトをしました。

【障害や生きにくさへの心配り、気遣い】

差別的言動や不当な対応により、職場や社会から疎外された当事者が、心身を思い、親族にも頼れず貧困に陥ることもあります。また、ゲイ・バイセクシュアルの男性 5731 人を対象としたインターネット調査では、全体の 65.9%が自殺を考え、14%が自殺未遂の経験がありました。LGBT が生きやすい環境をつくることは命を守ることです。特別扱いをして欲しいわけではありません。「合理的配慮(障害や生きにくさに合わせて行われる配慮)への心配り、気遣い」が大事です。「彼氏、彼女はいるの?」でなく、「好きな人は?、付き合っている人はいるの?」と性別に関係ない言い方をしてほしいです。

【多くの人が使いやすい環境づくり】

佐賀県のある市では、老朽化した小中学校のトイレの改修で、男子トイレから小便器をなくし、女子トイレ同様にすべて個室で洋式化する方針を決めました。家庭のトイレの洋式化と、大便器の個室に入りにくいと感じる男子が多いことを理由に挙げています。

また、千葉県のある中学校では、性同一性障害や LGBT などセクシュアルマイノリティの生徒らに配慮し、性別を問わずに着用できる制服を導入しました。スラックス(ズボン)やスカート、リボンやネクタイなどを自由に選べるようになりました。これらは学校の事例ですが、公共施設、事務所、店舗の改築や、様々な業種における制服にも同様の配慮ができ、多くの人が使いやすい環境づくりができるのではないのでしょうか。

【アウトティング問題】

アウトティングとは、本人の了解を得ずに、勝手に第三者に本人の性的指向や性自認を暴露する行為のことをいいます。誰かに話す前にまずは本人に確認し、その人の意思を尊重することは LGBT に限らず、人と接する上でも大切なことです。カミングアウトや当事者からの相談で大事にしたいことが6つあります。

1. 最後まできちんと話を聞く。2. セクシュアリティを決めつけない。3. 「話してくれてありがとう」を伝える。4. 「ど

うして伝えてくれたの」「何に困っているの」を聞く。

5. 「誰かに話しているか」「誰に話してもいいか」などを確認する。6. こういう活動をする団体、こんな勉強会があるなど、つながるための情報を伝える。カミングアウトされると最初は驚くかもしれませんが、素直に自分が疑問に思うことを聞いてほしいです。あなたに打ち明けてくれた人は、きっとあなたを信頼しています。気を遣いすぎず、素直にリアクションをしたいです。

【自分がカミングアウトした時の周囲の反応】

友人は「お前が女だから友達になっただけではない。男になるから友達をやめるということもない。今までと何も変わらない」、「気付いてあげられなくてごめん」などと言ってくれました。嫌悪感を示したり、否定的な反応をしたりする友人は一人もいません。いい友人に恵まれました。

家族では一番最初に母親にカミングアウトしました。「思い過ごしじゃないの、あなたは女の子。そんなこと言わないで」と号泣されました。父は「自分の人生にわざわざ足かせをはめなくても、苦勞する道を選ばなくてもいい」と言いました。「そうじゃない。生まれたときからはめられている足かせを外したい」と話しました。両親からすればずっと娘として育ててきて、いきなりそんな話をされて、「じゃあ、今日からは息子だ」とは言えなかったのでしょう。両親とはしばらくの間、気まずい期間もありました。手術を受ける時も「健康な身体を傷つけないで」、と言われました。「今の状態のまま生きていくのはもう耐えられない。」と話し、強引に手術を受けました。全身麻酔で 5～6 時間、100%の命の保証もありません。タイでの手術が終わって帰国した時、母から「あなたがそこまで覚悟を決めたのなら、私たちは応援する。性別が変わっても自分たちの子供であることは変わらない。誰が何と言おうと自分たちは味方である。悪いことをしているわけじゃない。これからはお互いに正々堂々と胸を張って生きていこう」と言われました。本当にうれしく、この言葉は今も自分の支えになっています。

【性の多様性、その人にしかない個性】

性の多様性を考えることは、その人の個性に目を向けることです。LGBT は、当事者本人が望んでそうなったわけではないし、親の育て方が悪いわけでも、育った環境のせいでもない。誰も悪くないし、悪いことをしているわけでもない。受け入れるには時間がかかっても、まずは相手の個性を知ることが、性の違いを理解する第一歩です。みんないろんな悩みを抱えているということを知ることが、LGBT を理解することです。ぜひその人にしかない個性を探してみてください。

第5回人権教育指導員研修会 及び 第3回社会人権教育研修会（期日：1月23日、会場：長野市役所第二庁舎10階講堂）

演題 「僕はぼくだから」夢にはばたく・夢の応援団

講師 山崎 順子 さん（上田市人権啓発推進委員、元上田市教育委員）

【奇跡の命の誕生】

私には子どもが3人います。今日は長男福太郎の話をしていきます。会場に義手と義足を持って来たので、後ほど皆さん、重さや触った感じを確かめてください。

1992年、平成4年1月、体重1600グラムと非常に小さく、右前腕欠損で右肘から先、左手の薬指の第一関節から先、左足下腿欠損でむこう脛から先がない状態で生まれました。障害名は「先天性こうやく輪症候群」といいます。原因は不明ですが、私のお腹の中の羊水の中に繊維状（細いひも）のようなものが出来、それが手や足に絡まって発達しなかったということです。

生まれた姿を見て私は「この先どうなっていくの。この子は生きていけるの」と思いました。この現実を受け止めようと、驚きや不安、悲しみや辛さ、こういう気持ちと向き合ってきました。とっても苦しい時間でしたが、命がなくなってもおかしくない中を生まれてきてくれた我が子が愛おしく、可愛らしい思いが一層強まってきました。この子は奇跡の命を持って私たちのもとに来てくれたのです。

生後7か月で義足をつけ始めました。この義足は16センチ、これが福太郎の左足になりました。私に障害のある我が子とともに歩んでいくことを自覚させてくれた義足です。

【心から褒める子育て】

福太郎の子育ては、いい意味で裏切られるものでした。右手、左足の一部がないことで、寝返りやお座り、ハイハイなどできないのでは…と、初めから思い込んでいた私。しかし、他の子より少し遅くても、一つ一つ福太郎のペースで全部できていきました。「すごいねえ、そんなこともできるの。」その短い手でハイハイもします。「すごい、すごい…」と心から褒めることができました。



障害があってもこんなに強く生きられる。福太郎が元気に成長していく姿に、私は勇気づけられました。

【みんなと同じが良かった】

小学校では水泳、野球、バスケットなどスポーツはみんなやりました。好奇心旺盛で、人前に立つことも平気。児童会長にもなりました。

高学年の時の運動会、かけっこで5、6人がトラックを一周近く走ります。福太郎は義足なので他の子より遅いです。担任の先生が福太郎だけスタートラインをみんなより前にし、ゴールするころ大体みんなと同じになるように考えてくれました。私は先生の配慮がありがたかったのですが、本人は「なんで僕だけ友だちと違うスタートラインなの。ゴールするのが遅くても、みんなと一緒に良かった。他の人と違う扱いをされるのは嫌だ」と思ったそうです。先生と福太郎、お互いの気持ちが分からないまま、配慮する側の押し付けになってしまったのでしょうか。配慮される側のいろいろな所を見たり、本人にも聞いたりして判断すること、ともに寄り添って分かっていく姿勢が大事なんだと私も反省し、考えさせられました。

【中学校進学】

中学校の部活動ではまさかの柔道部を選びました。この時は主人と大反対をしましたが、本人は自分で考えて自分で決めました。入部後しばらくして、練習中に右鎖骨を骨折してしまいました。これを心配していたのですが…。骨を折ったのだから痛いはずですが、しかし、本人は痛いと言いません。親に反対され自分で考えて入った柔道部、痛いとは自分のプライドや責任から言えなかったのでしょうか。そんな我が子の姿に「だから言ったのに。柔道部に入るからだよ。入らなければよかった」と言いそうになりますが、言えません。では親の私は何をすればいいのか。「怪我が一日も早く治るように、痛みが少しでもひくように、普通の生活に復帰できるように、母としてフォローしてあげよう」と決めました。子どもの姿から教えてもらったことです。

【夢を膨らませる二人の先生との出会い】

けがが治った後、ある先生と出会います。「お前を障害者扱いしないからな。一人の柔道部員として接するからな」と言われました。「今まで障害のある山崎福太郎。みんな障害というフィルターを通して僕を見ていたが、山崎福太郎という人間をフィルターを取って、直

接見てくれた初めての先生だった」と本人は言います。先生から柔道の魅力を教えてもらい、柔道部にはまっていきました。障害があってできないことがあっても、障害のせいにはしない。できないことも工夫して、やり方を考えて取り組むことが大事だと教えてもらいました。

もう一人は3年間見てくれた担任の先生です。先生は「お前なら、もっと出来るはずだ」と言ってずっと背中を押してくれました。そして、中学校の生徒会長になります。自分の可能性を広げることを教えてもらいました。二人の先生から、正面から向き合い信頼関係を築くことの大切さを学ぶとともに、将来の夢を大きく膨らませる出会いとなりました。

高校でも迷うことなく柔道班に入りました。高校は中学とルールが全く違い、最初から公式戦には出られないことは分かっていたのですが、中学校の時に取れなかった黒帯、初段を取りたいという目標がありました。高校2年生の時にその目標がやっと達成されます。同時に、試合に出て人と戦って上を目指す、自分を高めていくことができないと感じます。そんな時、また運命の出会いがありました。

【アルペンスキーとの出会い】

初めてアルペンスキーと出会います。中学校の近くに「日本障害者アルペンスキー」の全日本のコーチが住んでいました。全日本チームのトレーニング拠点は菅平のバインピーク、地元です。そのコーチからは、「アルペンスキーなら、障害者が競い合う世界があり、パラリンピックという世界最高峰への道がある」ことを教えてもらいました。どこへ向かって自分が頑張ればいいのか、遠い先に光が見えました。高校2年生の冬からアルペンスキーの世界に入り、大切にしたい夢が二つできました。

一つは、2014年のソチパラリンピックに出場すること。もう一つは、中学校の社会科の先生になることです。この夢を叶えるために大学に進み、スキー部に入りました。

大学4年生、ソチパラリンピックが開催されるシーズンです。しかし、出場するためにはワールドカップなどいろいろな大会に出て、成績を残してポイントを獲得しなくてはなりません。この時、そのポイントは1点もありません。ソチに頑張っていくか、友達と同じように社会に出る準備をするか、本人は非常に悩みました。自分の夢を叶えられる可能性が少しでもあればやってみると、大学4年生の後期、半年間休学してパラリンピックに気持ちを向けました。

【そしてソチへ】

ソチパラリンピックは3月ですが、アルペンスキーの立

位、立って滑るクラスの日本代表になったのは1月末でした。明日のことすら、まだ命があるのかさえ分からない我が子の未来が、こんな未来になったのです。可能性は無限に広がっていると改めて思いました。目標は8位に入ることでしたが、2種目に出場し1つが26位、もう1つが30位でした。この年のソチのコースは雪が少なく、非常に悪いコンディションの中を滑りました。コースアウトや途中棄権の選手も多くいました。1種目につき2本、2種目で4本しか滑れません。1回コースアウトをすれば、その後滑れません。どんな格好をして滑ってもゴールしようと決めて、スタート地点に立ったそうです。何とか4本滑り切っていただいた順位でした。スキーのレベル、自分の精神的な弱さを改めて知り、世界のレベルの高さ、最高峰の独特な雰囲気を感じたそうです。そして、自分が多くの人に支えられて夢に向かって進んで来られたこと、そのことはとても幸せなことだと改めて思ったそうです。

【夢の出会い、夢の応援団】

福太郎には障害があります。でも、本人は手がない、足がないということを障害だとは思っていません。手があって足があるのは僕ではない。右手がなくて、左足がない、この姿が僕なんだ。僕は僕だから…。これまでの経験からこういう思いを強くしました。障害があるからこそ今がある。一つの出会いに気づくこと、こうなりたい、もっと知りたい、もっと勉強したい、もっと成長したい、そう思えた出会いは運命の出会い、夢の出会いとなりました。

私は子育てで褒めることを大事にしたいと思いました。目に見える成長だけでなく、成長する心を褒める。私を感じた心を素直な心で褒め、言葉にして伝える。3人の子どもたちに出会えて幸せです。この子たちは私を母にしてくれ、私を成長させてくれました。これからは私も子どもを信じ、静かに背中を押す応援団でいたいと思います。必要のない命は一つもありません。命には輝く力、自分らしく生きる力があるのですから。

「令和元年度 活動報告」

本市では「全ての人の人権が尊重される社会」を目指して、「長野市第42回人権を尊重し合う市民のつどい」(本年度は「長野県人権フェスティバル2019」と合同で開催)、人権教育指導員研修会(5回)、社会人権教育研修会(3回)、指導主事の講師派遣(54回)、啓発ビデオ・DVDの貸し出し(2月末時点で342本)、ラジオ放送を通しての人権啓発(6回)を実施しました。